

原安三郎コレクション
Hokusai and Hiroshige:
Works from the Hara Yasusaburo
Collection

北斎×広重

2026年
4月18日[土]
6月14日[日]

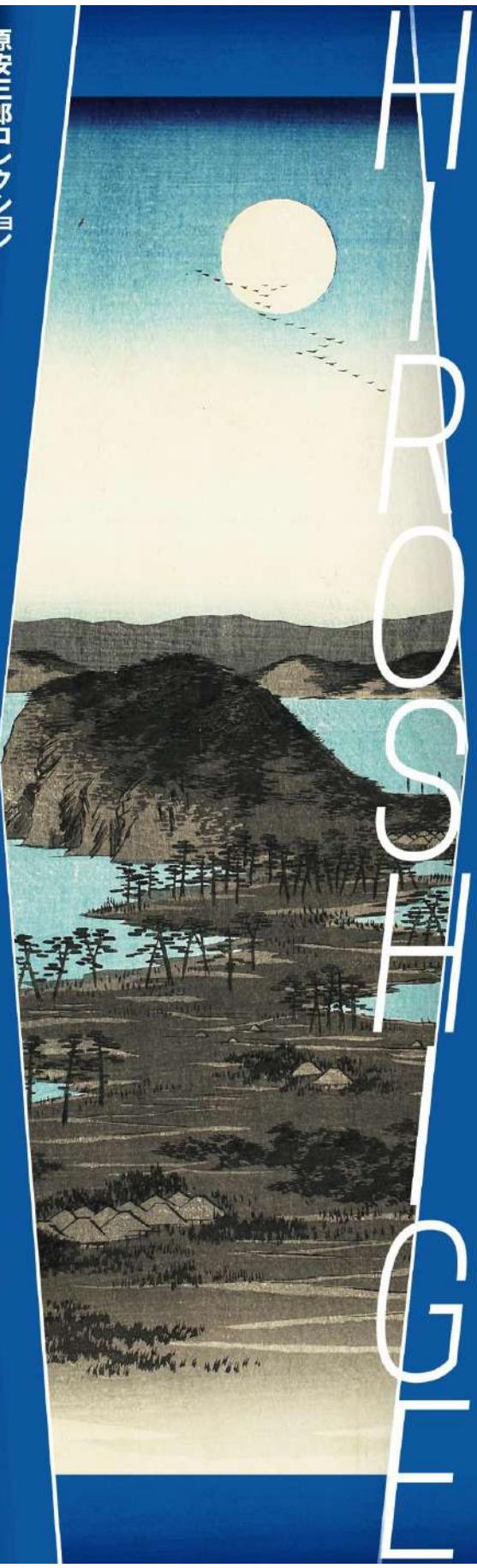
開室時間
10時～18時（金曜日は19時30分まで）
入場はそれぞれ30分前まで
休館日
月曜日（5月4日開館）5月7日[木]

主催
京都府、京都文化博物館、毎日新聞社

京都文化博物館
TEL: 0604-8-683 京都市中京区二条高倉
<https://www.bunpaku.or.jp/>

THE
MUSEUM
OF KYOTO

右
秋川広重《武蔵金八幡夜祭》部分
左
葛飾北斎《諸国巡遊記 下野郡山崎りふりの港》部分
いずれも外年鑑付合併表(2025)より



〈報道関係者お問い合わせ先〉

「原安三郎コレクション 北斎×広重」広報事務局（株式会社TMオフィス内）担当：馬場・永井・西坂

TEL: 090-6065-0063 (馬場) 090-5667-3041 (永井)

テレフォンセンター: 050-1807-2919 FAX: 050-1722-9032 E-MAIL: hokusaihiroshige@tm-office.co.jp

葛飾北斎（1760～1849）と歌川広重（1797～1858）はそれぞれ〈富嶽三十六景〉、〈東海道五拾三次之内〉といった名シリーズを手がけ、浮世絵における風景画の可能性を大きく広げました。北斎は、大胆かつ独創的な構図によって自然の迫力と、その中に生きる人間をユーモラスに描いています。一方、広重は、穏やかな色彩感覚で季節の移り変わりや天候、そして人々の営みをあたたかな眼差しで表現しました。両者の作風は対照的でありながら、当時から多くの人々を惹きつけ、国内外に多大な影響を及ぼしました。

本展では、実業家・原安三郎（1884～1982）氏が蒐集した名品約220件を一堂に公開します。原氏は、蜂須賀藩の普請方をつとめた家系に生まれ、父親は徳島特産の藍を扱っていました。氏の審美眼にかなった作品は、摺りの発色が鮮やかに保たれ、今日なお当時の色彩を伝えています。さらに、肉筆画も特別出品され、浮世絵師の筆技を間近にご覧いただけます。

歌川広重の〈富士三十六景〉シリーズなど、本コレクションとして初公開の作品も数多く含まれます。風景画の名品を一堂に会した貴重な機会を通して、北斎と広重が描いた江戸の豊かな世界をご堪能ください。

原安三郎コレクションとは

財界の重鎮として経団連常任理事などの要職をつとめ活躍した日本化薬株式会社元会長の原安三郎（はら・やすさぶろう／1884～1982）氏が蒐集したコレクションです。同コレクションの中心である浮世絵は、大正のはじめに横浜の宣教師から譲り受けたものを母体として、長年にわたり集めていったものと伝えられます。2005年に初公開されると、一人の蒐集家の所蔵品としては、質の良さと量の多さにおいて最大級の発見とされました。

特に、誰もが知る北斎〈富嶽三十六景〉や広重〈東海道五拾三次之内〉など、いわゆる「揃物」（シリーズ）が丹念に蒐集されていることが特徴です。本展では、約20年ぶりのラインアップで、北斎や広重の名品を揃って紹介します。また、肉筆浮世絵においても、米国人ウィリアム・ビグローの旧蔵品をはじめ、貴重な作品が多く含まれています。

開催概要

展覧会名：特別展「原安三郎コレクション 北斎×広重」

会期：2026年4月18日（土）～6月14日（日）※会期中に展示替えあり

会場：京都文化博物館（〒604-8183 京都市中京区三条高倉）

開室時間：10～18時（金曜は19時30分まで）※入場はそれぞれ30分前まで

休館日：月曜日（5月4日は開館）、5月7日（木）

主催：京都府、京都文化博物館、毎日新聞社

特別協賛：日本化薬

特別協力：中外産業

※本展は、京都会場を第一会場として、以降、徳島県立近代美術館、秋田県立近代美術館、静岡市美術館などを巡回する予定です。

本展のみどころ

- 名所絵シリーズで全国を旅する展示。
北斎と広重の構図の面白さを堪能！
- 江戸期の鮮やかな摺色がよく残る作品群。
藍色の美しさに注目！

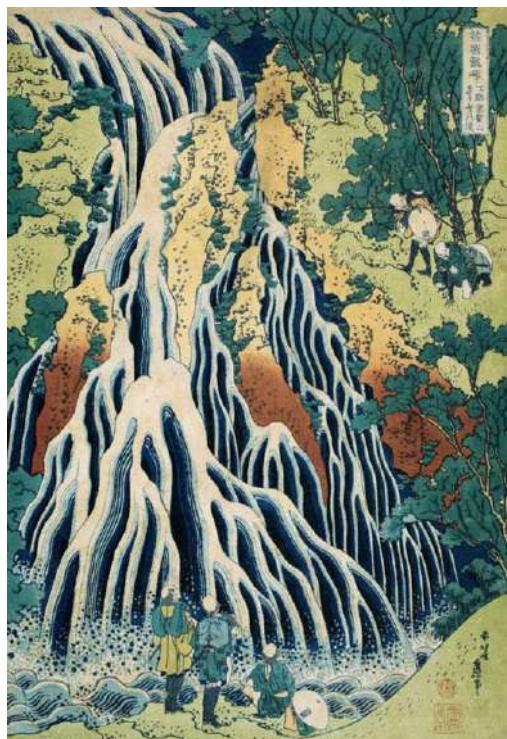
葛飾北斎（1760～1849）は、江戸の本所割下水（現在の墨田区）に生まれ、数え19歳で浮世絵師の勝川春章に入門、90歳で世を去るまで絵師として活躍しました。最もよく知られているのは、70歳頃から刊行された錦絵の名所絵シリーズでしょう。原安三郎コレクションには、この絶頂期の主要な名所絵がほぼ網羅されています。〈富嶽三十六景〉、〈諸国瀧廻り〉、〈雪月花〉、〈諸国名橋奇覧〉、〈千絵の海〉といった著名なシリーズが、「揃い」で所蔵されているのは極めて貴重です。

摺りがシャープで保存状態も良好な作品が多く、コレクションに対する原氏の並々ならぬ熱意がうかがわれます。本展では、上記の名所絵シリーズに加え、怪談をテーマとした〈百物語〉や富士を様々な角度から描いた絵本『富嶽百景』3冊をあわせて紹介します。

富士山を大迫力で描いた、 北斎の代表作の一つ



葛飾北斎 《富嶽三十六景 凱風快晴》



葛飾北斎 《諸国瀧廻り 下野黒髪山きりふりの滝》

橋だらけ 北斎の挑戦が感じられるシリーズ



葛飾北斎 《諸国名橋奇覧 飛越の堺つりはし》

江戸時代には珍しい星空と 幾何学的な水流の表現に注目



葛飾北斎 《千絵の海 甲州火振》

第1章 北斎

北斎の構想力に加え、
彫師・摺師の技術力も必見

第2章 広重

門の向こうに、江戸時代の喧騒を
垣間見る広重の代表作



歌川広重《東海道五拾三次之内 日本橋 朝之景》

歌川広重（1797～1858）は、江戸八代洲河岸（現在の中央区）の定火消同心の長男として生まれ、数え15歳で浮世絵師の歌川豊広に入門。生涯にわたり名所絵シリーズを多く手がけ、第一人者として活躍しました。とりわけ有名なのは、出世作〈東海道五拾三次之内〉（保永堂版）でしょう。

原安三郎コレクションには、広重の主要な名所絵シリーズの多くが「揃い」で所蔵されており、〈東海道五拾三次之内〉（保永堂版）、〈京都名所之内〉、〈浪花名所之内〉、〈雪月花〉、〈富士三十六景〉、〈六十余州名所図会〉、〈名所江戸百景〉などを網羅します。本展では〈東海道五拾三次之内〉（保永堂版）、〈京都名所之内〉、〈雪月花〉、〈富士三十六景〉の4つのシリーズを揃って紹介します。

立体感と静けさとを見事に表現した逸品



歌川広重《武陽金沢八勝夜景》

京都・嵐山の春の風景と、
市井の人々の息遣いが伝わる



歌川広重《京都名所之内 あらし山満花》

夜景と雨は広重の十八番



歌川広重《東海道五拾三次之内 沼津 黄昏図》

こんなに違う！ 北斎×広重

北斎と広重は、同じ風景でも、全く異なる構図で描くなど、完成作品には大きな違いがあることがしばしばあります。

愛知県岡崎市の矢作川（やはぎがわ）に架かる矢作橋とその周辺の情景を描いた作品を対比してみましょう。



葛飾北斎《諸国名橋奇覧 東海道岡崎矢はきのはし》



歌川広重《東海道五拾三次之内 岡崎 矢矧之橋》

橋を思い切り大きく描こうとした北斎と広重。完成作にはこれだけの違いがあります。

現代では北斎の奇抜さが強く目を惹くかもしれません。広重はモチーフをできるだけ省略し、

向こう岸に城を入れることで名所絵としての伝統を受け継いでもいます。

同じ場所を描いた2人の作品をぜひ比べてお楽しみください。

特集

原安三郎の慧眼

上方浮世絵の力！漢詩と見立て美人の知的な魅力



月岡雪鼎《野辺美人図》

原安三郎（1884～1982）氏が蒐集した作品は、北斎や広重の錦絵だけに留まりません。コレクションには、浮世絵師たちが1点ずつ直筆で描いた肉筆浮世絵多く含まれます。絵師の名前を概観すると、江戸初期から近代に至る体系的なコレクションであることが理解され、原氏の学究肌な一面もうかがえます。本展では、画的に北斎へとつながる宮川長春や勝川春章、広重へとつながる歌川豊春や豊広のほか、上方浮世絵で活躍した月岡雪鼎による肉筆浮世絵を紹介します。



歌川豊春《遊女と禿図》

歌川派の祖による作品。豪華絢爛な着物が見どころ